

医学教育カリキュラム検討会

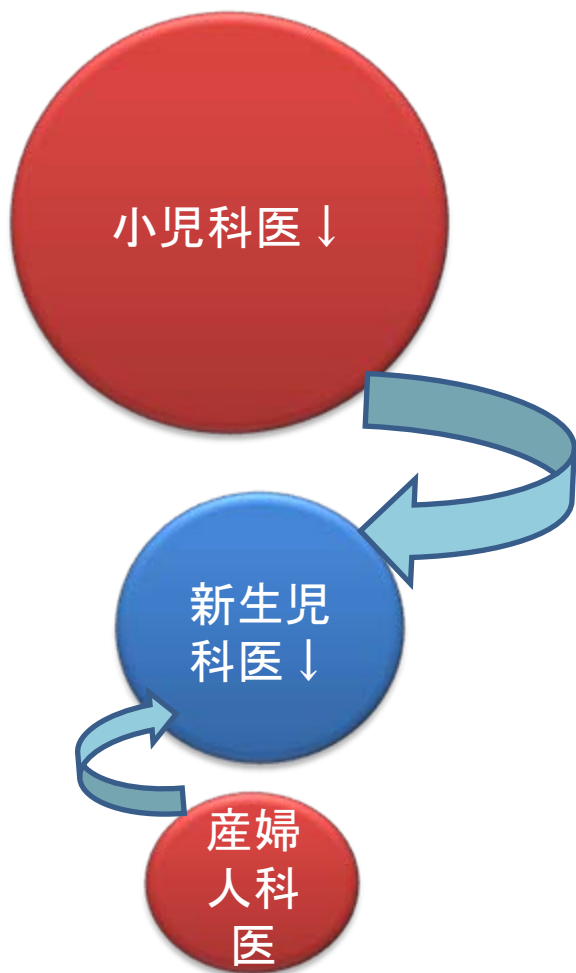
周産期医学（新生児医学）

昭和大学医学部小児科

板橋 家頭夫

(日本周産期・新生児医学会)

新生児科をとりまく医療の現状と課題(1)

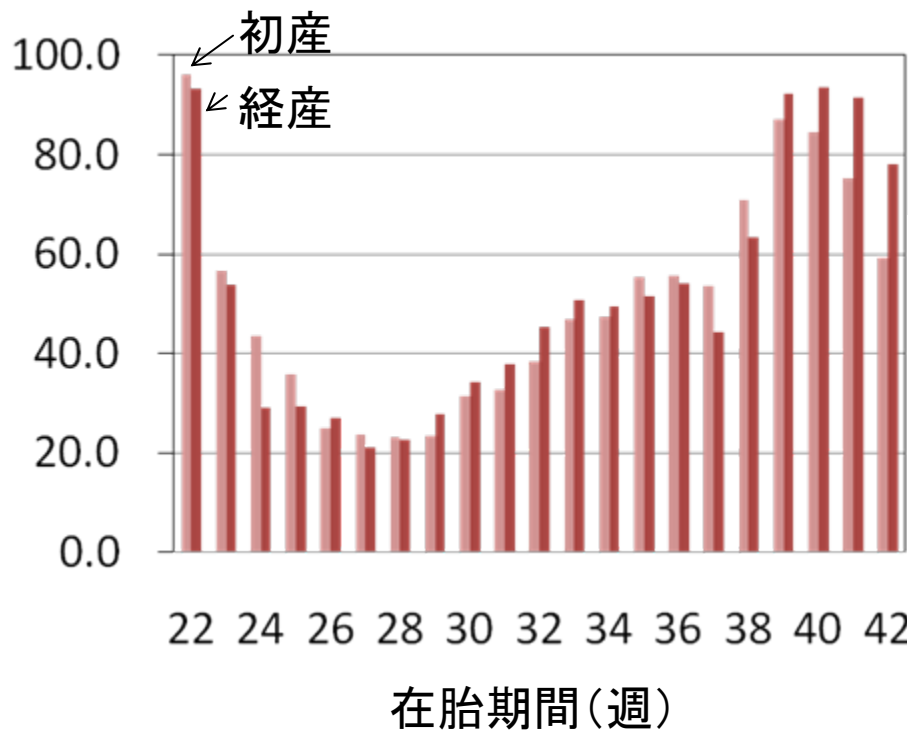


小児科医を希望する医師数によって新生児を専攻する医師の数が影響を受けやすい

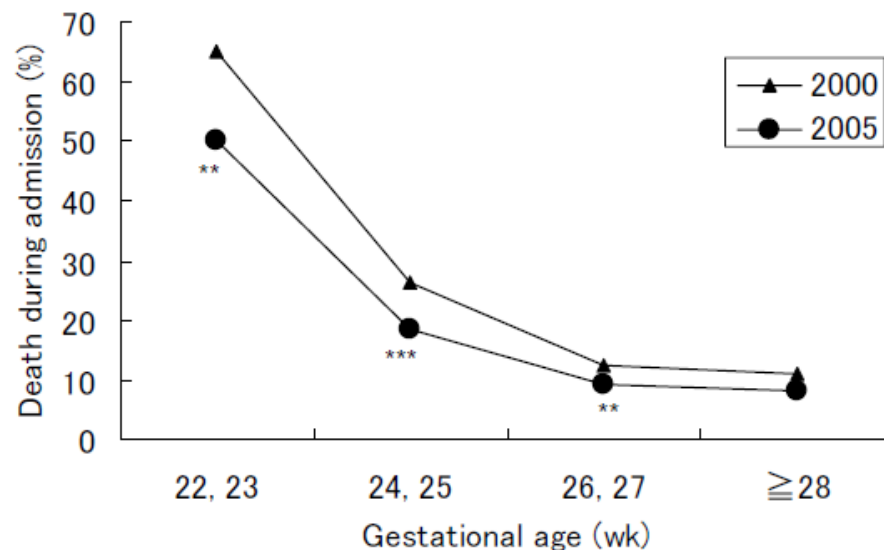
新生児科医の不足

新生児科をとりまく医療の現状と課題(2)

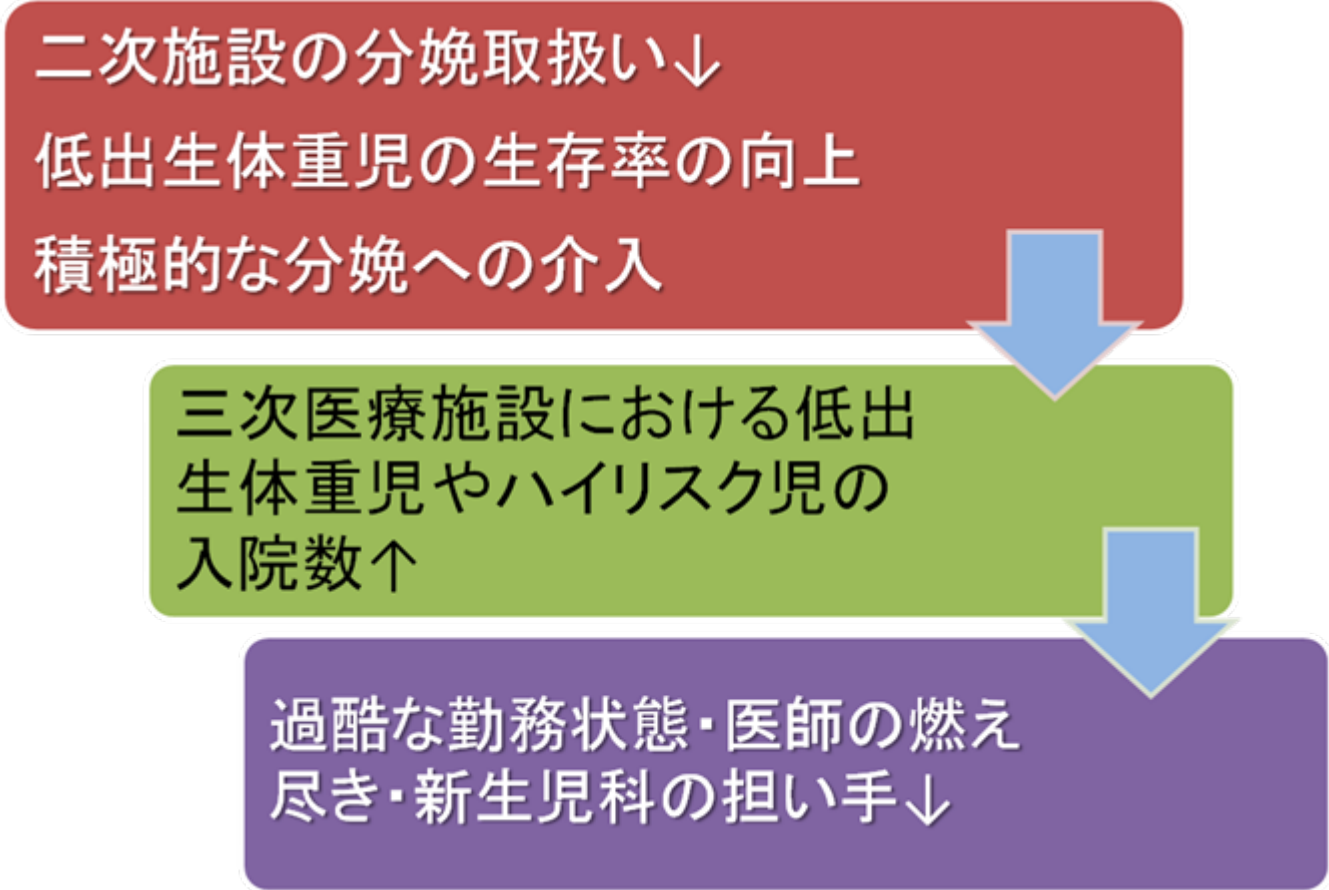
経膈分娩の比率



超早産児の死亡率の低下



新生児科をとりまく医療の現状と課題(3)



新生児医療を担う医師に求められるもの

新生児集中治療

- ハイリスク児の予知(母体要因)
- 集中治療の知識と技術
- ±フォローアップ
- 母子関係の理解

健康新生児

医学教育修了時まで求められるもの

すべての医学生に対して

- 周産期医療の概念
- 正常新生児の発達・生理
- 正常新生児のケア
- 母乳栄養・母乳育児
- ハイリスク新生児
- 新生児の蘇生法

将来の新生児科の医療の担い手に対して

新生児医学以外に

■ 小児科全般の知識

- ・小児期の成長・発達
- ・育児/栄養/予防医学
- ・遺伝
- ・小児のcommon disease

■ 産科的知識

- ・胎児期の発達・生理
- ・母体異常と新生児のリスク

■ 小児外科的知識

卒前医学教育に効果的な方策(全般)

■積極的な診療参加型の実習

- * 国民に対し医学教育の重要性を啓蒙
- * CBT、OSCEを前期国家試験として位置づける
 - 国民が安心して卒前教育に協力できる
- * 前期国家試験合格者のみが卒前臨床実習を可能とする
- * 十分な実習期間を設定する
 - M5: 内科・外科・救急・麻酔科→後期国家試験(1)
 - M6: 残りの診療科→後期国家試験(2)
- * 卒前教育に専念する教員の配置を義務付ける
- * 実習で行う内容を明確にする(患者にも明確にしておく)

- ## ■卒業後は家庭医コース、専門医コースに振り分ける (現状の初期臨床研修程度の内容であれば卒前で可能)

卒前医学教育に効果的な方策（周産期）

■現状では小児科の卒前実習が短く、その影響で新生児医学を実習する期間があまりにも短い
→十分な実習期間の確保が必要

■周産期医学を実習するには、産科と新生児科の連続性が維持されることが必要

■シュミレーターを利用した新生児蘇生法の学習
■フォローアップ外来実習（低出生体重児が成長していくことを実感できる）